

国外実態調査報告書

テーマ : シンガポールの日系企業訪問やインタビュー・アンケート調査を通じ、多民族・多文化社会におけるビジネスやコミュニケーション、教育の実態を学ぶ

ゼミ名 : 栗原 文子 ゼミ

調査日 : 2024年9月8日(日)～2024年9月12日(木)

調査先 : 【シンガポール】 酢重、リバナス・シンガポール、シンガポールマネジメント大学など

授業科目名 : 国際教養演習 I

参加学生数 : 7名(3年生)、2名(4年生)

調査の趣旨(目的)

調査の目的は、学生たちが多民族・多言語国家であるシンガポールでのビジネスマネジメントについて、会社訪問と従業員へのインタビューから学ぶこと、シンガポールと日本とのかわりについて歴史や現在の企業活動から学ぶこと、それぞれが設定した課題について理解を深めるために活動することである。

調査結果

シンガポールでは、全員で行った活動と、各自で行った活動があるため、それぞれの概要を報告する。

全員で行った活動としては、シンガポールの学生との交流、シンガポールマネジメント大学のキャンパスツアー、日本食レストラン酢重への訪問、国立博物館またはプラナカン博物館訪問、白門会OBとの交流、企業訪問(リバナス・シンガポール)である。シンガポールマネジメント大学は中央大学の協定校でもあり、過去、商学部の学生が交換留学をしたこともある。大学についての説明を聞いた後に、キャンパスツアーをしてもらった。スタッフたちの国籍や人種も多様であり、民族や文化の多様なシンガポールを実感した。また、多くの学生にとっていわゆるイギリス英語やアメリカ英語ではない英語に接するよい経験となった。日本食レストラン酢重では、店長と店への卸や食材の調達をおこなっている2名の日本人社員からお話を伺うことができた。日本食材の調達、伝統的な味をどのように守っていくか、日本式梱包材の流通など広範囲にわたって話を伺うことができ、学生も積極的に質問をした。国立博物館では、日本に占領されていた時代の展示物などを興味深く見学し、プラナカン博物館では、マレー系、中華系、ヨーロッパの文化がシンガポールで融合してできたプラナカン文化の食、衣、調度品、工芸品などの展示に魅了された。白門会OBとは、中華料理を囲みながら、先輩の起業した経緯やシンガポールの生活について詳しくお話を伺うことができた。リバナス・シンガポールでは、中大のOGからシンガポールで仕事をする経緯や企業の説明を伺い、スタートアップ企業を国が支援する場であるインキュベーションセンターについて知ることができた。

各自で行った活動としては、JTB や東京海上シンガポールなど日系企業への訪問や、日本食レストランへの訪問と従業員へのインタビュー、シンガポールの教育政策の歴史が学べるヘリテージセンターへの訪問や、小学校の教員へのインタビューなどがあった。さらに、シンガポールと日本の公園や緑化政策の比較を行った学生は、いくつかの公園に出向いて、インタビュー調査を行った。また、シンガポールの企業で働く従業員にビジネスにおけるコミュニケーションの方法についてアンケートをとった学生もいた。

実態調査を通じて、シンガポールで働くシンガポール人と日本人から仕事内容や異文化への対応やシンガポールでのスタートアップについて、さらに他民族から成る社会における教育や暮らしの実態について、有意義な学びを得た。



